

研究テーマの見つけ方

–あなたのテーマは先行研究のどこに位置づくのか–

ここまでに準備した「研究アンカー」と「研究マップ」を携えて、長く続く研究の旅に耐えうる「研究テーマ」をいよいよ設定していきます。ここで注意したいのは、この「研究アンカー」や「研究マップ」は、あくまでも旅経験の少ない自分が想像で描いたものであるということです。自分が満足のいく旅ができれば十分だという人もいるかもしれませんが、たとえばキャリア研究の多くは、人や社会を対象としています。研究が、こうした協力対象に支えられていることを勘案すると、自分だけが理解可能な地図ではなく他者と共有可能な地図を描いて旅をすることが求められるでしょう。そのため、自分で準備した「研究アンカー」と「研究マップ」を他者と共有できるように修正したうえで、実際に取り組む「研究テーマ」を見つけていくことになります。

この地図に必要な情報は、やはり他者との共有が前提とされてきた先達の研究知見に埋め込まれています。すなわち、先行研究から情報を集めることでこの地図を描くことができます。大抵、一般的に用いられる用語と研究で用いられる専門用語は大きく異なります。そのため、準備した「研究アンカー」や「研究マップ」で用いている言葉が一般的な用語であれば、先行研究を参照して専門用語に書き換えるという翻訳作業から始めていきます。その上で、自分の「研究マップ」の各部分が、どの先行研究でどのように検討されているのかを確認していくことになるでしょう。

これらの作業を行われなければ、他者と共有可能な地図を描くことは困難となるため避けて通ることはできません。しかし、先行研究の文献を探して読んで整理し直すことの繰り返しというこれらの作業には、莫大なコストがかかります。また、これらの作業を進めていく中で「研究迷子」になるような躓きポイントも多々あり、実際に取り組む「研究テーマ」を見つけるまでに至らない人が少なくありません。

たとえば、自分が関心をもっているテーマはどのような研究領域で検討されてきたのか、自分が研究していきたいと思っ描いたことは専門用語でなんと表現すればよいのかなど、翻訳作業から躓きを経験する研究初学者がいます。もちろん、自分が抽出した関心のあるテーマが研究されていないということもあ

るかもしれませんが、大抵の場合、この躓きは検索の不十分さに起因しています。そのため、類義語を複数検索したり類似研究の引用文献を参照したりといった検索スキルの熟達によって、その躓きをほとんどの場合解消できます。また、それでも検索できないという場合は、自分が関心をもった先行研究の執筆者を覚えておき、学会の場（本学会の場合、研究大会や地区部会など）で直接相談してみると効率良く専門用語への翻訳が進むように思います。

その他にも、先行研究を調べていく中で自分の関心が実証研究ですでに明らかにされていることを知り、自分が行う「研究テーマ」を設定できないという躓きを経験する研究初学者もいます。しかし、自分の関心が明らかにされているのであれば、その研究知見を元に未開の地を開拓するような新たな「研究テーマ」を設定できるチャンスでもあります。また、そもそもその研究結果が頑健な結果であるとは限りません。たとえば、特定のキャリア教育・支援が効果的だと明らかにされている研究があったとしても、そのキャリア教育・支援が全ての人・社会に効果的かといえれば疑わしいところです。専門的な研究論文を理解するスキルが必要となりますが、研究方法や分析方法、結果の解釈、考察内容が妥当かを丁寧に見ていくと、その研究の不十分さを理解することができ、新たな「研究テーマ」を見つけることができるでしょう。

なお、先行研究がたくさん蓄積されていて、自分が準備した「研究マップ」よりも先行研究から描ける地図がより広範なものとなる可能性は十分にあります。その場合、自分が準備した主観的な「研究マップ」を細かくちぎって、その研究領域で描かれてきた地図に配置し直す作業の方が効率的かもしれません。当然、先行研究を読めば読むほど、その研究領域の広さに気づき、そのたびに地図を描き直す作業が求められます。

実際には、一つの研究領域もしくは概念をとってみても、その地図全体を把握することは困難です。研究者によって描かれている地図が異なる場合もしばしばで、理解に苦しむこともあるでしょう。しかし、研究の地図上で、どこまでがどの程度拓けているかの境界線、さらには、どこからが拓けていないのかの境界線を明確にすることができれば、「研究テーマ」は自ずと見つかります。また、「研究テーマ」を先行研究の中に位置づけることができれば、研究の社会的意義のみならず、その研究領域の先行研究を発展させる学術的意義、さらには、研究のオリジナリティが必然的に導かれることでしょう。

（駿河台大学 杉本英晴）